

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

選択式(用語・地名の選択, 統計判定), 記述式, 論述式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問5題。選択式・記述式の解答個数は27で、描図問題が出題された昨年(20)に比べ増加したが、一昨年(29)とはほぼ同じである。論述式では、字数指定のあるものが12問(昨年は12問)、総字数490字(昨年は470字)、字数指定のないものは6問(昨年は6問)で、論述式全体の総字数は昨年と概ね同じである。大問ごとにみると、字数指定問題がⅠは2問(80字)、Ⅱは2問(60字)、Ⅲは3問(130字)、Ⅳは2問(90字)、Ⅴは3問(130字)で、1問当たり字数は、30字が2問、40字が7問、50字が3問だった。字数指定のないものは、Ⅰで4問、ⅣとⅤで各1問出題され、解答欄は1行(20~30字)のものが多く、10字程度で答えられる短いものも含まれた。難易度は、昨年とほぼ同様である。

出題の特徴

一昨年より大問5題の構成となっている。テーマはⅠが地形図、Ⅱが地誌、Ⅲが自然と生活、Ⅳが水産業、Ⅴが通信で、教科書の主要テーマをカバーしている。読図問題は、2015年以降、大問として出題されることが定着している。読図問題以外にも、図表の読み取り問題が多く、本年度はすべての大問で地図や統計表、グラフなどの図表が使用された。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
Ⅰ	記述式 論述式	地形図の読図	2万5千分の1地形図、奈半利川(高知県)河口付近の沖積平野、台地。大半が論述式で、水制の役割、国道迂回の原因(40字)、ため池がある理由、道路と施設の関係、山地の産業と集落の機能(40字)。	やや難
Ⅱ	記述式 論述式	オセアニア地誌	地図。オーストラリアとニュージーランド。地名、語族名などのほか、論述式はフィヨルドの形成過程(30字)、APECの役割(30字)。	易
Ⅲ	選択式 記述式 論述式	乾燥気候と生活	リード文、衛星画像。空欄補充のほか、論述式は、画像読み取り=オアシスの立地する地形、水の入手方法(40字)、土壌塩類化のメカニズム(50字)、砂漠化の人為的要因(40字)。	やや易
Ⅳ	記述式 論述式	水産業	グラフ(国別水産物生産量)、統計表(エビの国別生産高)。バンク、海流、水産物の名称のほか、論述式はペルー海域の自然条件、ペルーの漁獲量変動の理由(50字)、エビ養殖に伴う環境破壊(40字)。	標準
Ⅴ	選択式 論述式	通信	グラフ(国別の電話・インターネット利用率)。国名判定のほか、論述式は中国などの携帯電話契約数急増の理由(40字)、アメリカ合衆国・ドイツの固定電話契約数減少の背景(40字)、通信衛星・光ファイバーの役割、デジタルデバイドの内容(50字)。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書を利用した基本知識（地名や用語）の蓄積は当然だが、論述式への対応として、基本的な地理用語の語義、自然や人文現象の地域的な違いとその理由・背景などについて、簡潔に（20字～100字程度）ポイントを絞って書く練習を繰り返す必要がある。また、地形図や統計図表の読み取りなど地理的技能や思考力を試す出題が多く、難問もあるので、日頃から図表の読解力を高めるよう心がけたい。特に地形図の読図問題は、毎年必ず出題されるようになっているので、早い時期から読図練習に取り組む必要がある。これらについては、過去問を研究して確かめておこう。